

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：第3次産業活動指数(6月)

発表日：8月23日(火)

～4-6月期の景気の底堅さを再確認～

(No. J-92)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 徳永香奈 (03-5221-4549)

(単位：%)

		第3次産業活動指数										
		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療、福祉	サービス業		
		前期比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
04	1-3月	0.0	2.4	1.8	▲3.0	▲0.5	▲0.1	1.0	▲0.2	▲0.6	1.0	▲0.2
	4-6月	1.6	2.5	1.6	3.3	0.7	0.5	2.4	1.6	0.5	0.7	3.0
	7-9月	▲0.2	2.4	0.2	▲3.4	0.5	0.1	▲1.9	0.1	▲0.8	0.9	0.8
	10-12月	0.6	2.0	▲2.4	3.7	▲0.1	▲0.1	0.6	0.6	▲0.1	0.2	1.5
05	1-3月	1.4	2.1	4.2	▲2.1	0.2	1.6	1.8	▲0.3	3.0	1.0	2.3
	4-6月	0.0	1.9	▲0.9	1.9	1.0	0.0	▲1.0	1.1	▲0.7	▲0.6	▲0.1
04	1月	2.0	2.5	2.5	▲4.1	0.8	3.4	3.0	0.2	▲2.5	2.2	2.5
	2月	▲3.1	2.7	▲1.9	▲0.6	▲3.0	▲3.6	▲3.3	▲2.8	0.2	▲3.6	▲4.0
	3月	1.6	2.1	1.5	0.2	2.6	▲0.6	4.6	3.1	1.0	4.2	0.6
	4月	2.0	3.4	▲0.1	2.1	0.2	3.2	1.7	0.4	▲0.2	▲0.6	4.4
	5月	▲1.0	1.0	1.6	▲1.0	▲0.5	▲2.0	▲1.4	0.2	0.5	0.1	▲0.7
	6月	0.6	3.0	0.8	5.7	0.6	1.1	▲0.8	0.3	▲0.9	▲0.6	0.1
	7月	▲0.3	3.4	0.1	▲9.3	1.3	0.9	▲1.7	▲0.2	1.2	0.6	0.4
	8月	0.2	2.6	▲2.0	4.9	▲1.6	▲1.0	1.1	0.1	▲3.1	1.0	0.2
	9月	0.0	1.6	1.3	▲0.4	0.2	▲0.5	▲0.1	▲0.1	1.8	▲0.3	1.6
	10月	0.3	0.5	▲1.4	2.4	0.4	1.2	0.1	▲0.2	▲0.7	▲0.4	▲1.1
	11月	0.3	3.0	▲1.6	▲1.4	0.3	▲0.7	0.8	1.0	▲2.1	0.9	1.9
	12月	0.1	2.4	▲0.6	2.4	▲0.8	0.0	▲1.0	0.3	5.7	▲0.4	0.7
05	1月	2.4	3.1	3.6	▲3.1	0.6	4.6	2.9	▲0.3	0.1	1.9	1.9
	2月	▲1.2	1.5	2.3	1.1	▲1.1	▲2.7	▲1.0	▲0.3	▲0.8	▲2.0	▲0.7
	3月	▲0.9	2.0	▲0.2	▲2.6	2.3	▲2.9	▲0.2	▲1.2	1.3	1.5	▲0.7
	4月	1.7	1.7	▲0.6	1.8	0.5	4.3	▲0.2	1.4	▲0.7	▲0.5	1.2
	5月	▲1.5	1.8	▲2.8	▲1.3	▲1.4	▲2.2	▲0.6	1.0	▲0.7	▲0.3	▲1.8
	6月	1.0	2.0	2.8	7.5	1.1	0.8	0.1	▲0.2	▲0.4	▲0.7	2.0

(出所)経済産業省「第3次産業活動指数」

## ○ 第3次産業活動指数の緩やかな改善傾向が継続

6月の第3次産業活動指数は、前月比+1.0%と、ほぼ事前コンセンサス(+0.9%、レンジ0.0%～+1.8%)通りの2ヶ月ぶりの上昇となった。今月上昇した主な業種は、情報通信業(同+7.5%)、サービス業(同+2.0%)、卸小売業(同+0.8%)、電気・ガス・熱供給・水道業(同+2.8%)であった。これらは前月大きく落ち込んだ反動増が出た形となった。この結果、4-6月期の伸びは前期比横這いとなった。

3期連続の上昇とはならなかったものの、1-3月期が高い伸びとなった後にもかかわらず横這いに踏みとどまったことから、第3次産業活動指数は底堅く推移していると判断できよう。今後も、雇用所得環境の改善により個人消費が底堅く推移することで、第3次産業活動指数は緩やかな改善が続いていくことが見込まれる。

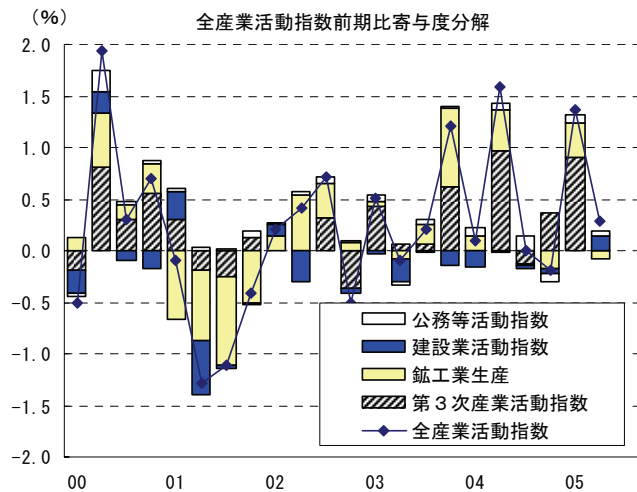
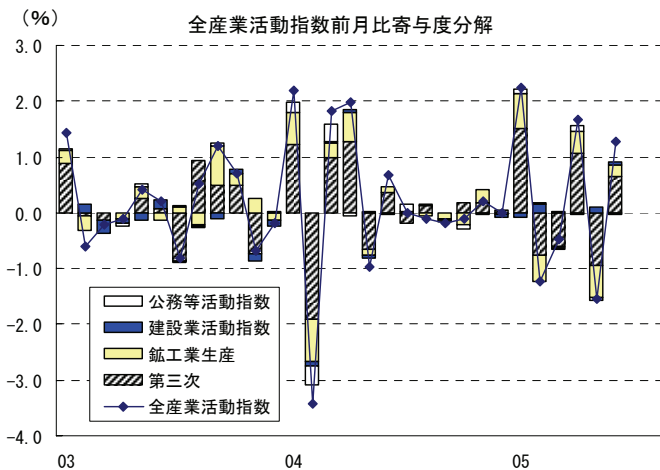
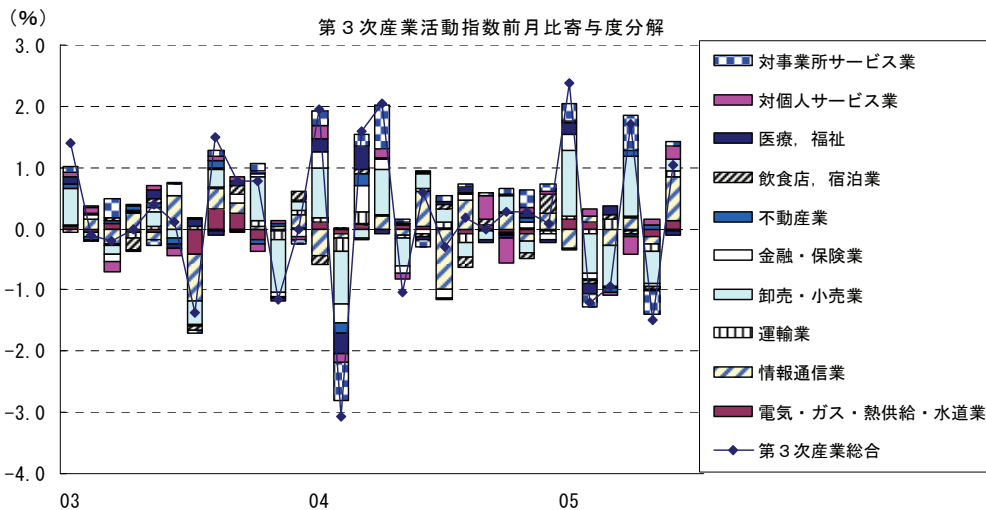
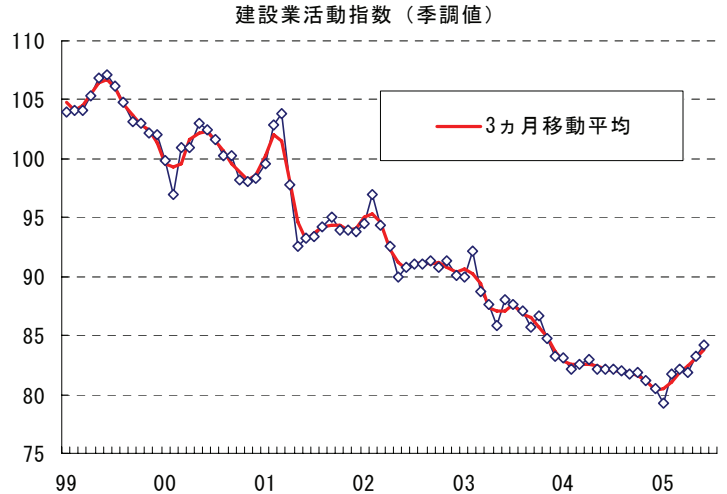
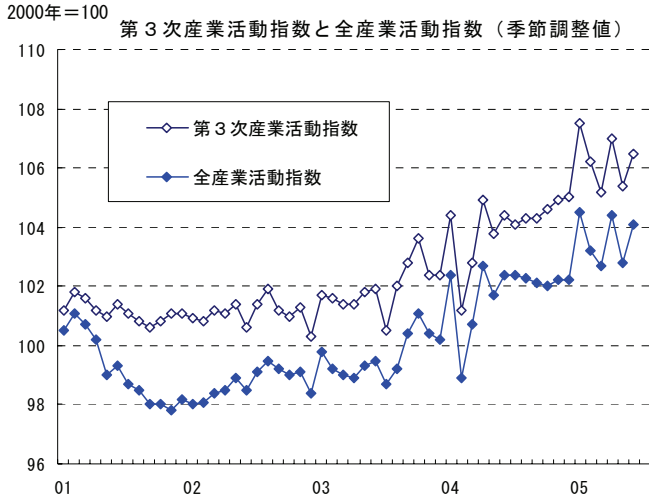
## ○ 全産業活動指数は2期連続の上昇

同時に公表された6月の全産業活動指数は前月比+1.3%と2か月ぶりに上昇し、事前コンセンサス(+1.0%、レンジ+0.3%～+1.5%)を若干上回った。第3次産業活動指数の上昇に加え、鉱工業生産活動指数の上昇(同+1.6%)、好調な民間部門の牽引による建設業活動指数の上昇(同+1.1%)が全体を押し上げた。

この結果、4-6月期では前期比+0.3%と2期連続の上昇となった。全産業活動指数は供給側からみたGDPとも呼ばれることがあり、GDPと似た動きをすることが知られている。供給側から4-6月期の動きを見ると、在庫調整の遅れや輸出の伸び悩みから鉱工業生産指数(同▲0.4%)が低迷する一方で、個人消費(第3次産業活動指数：同+0.0%)や民間建設投資(建設業活動指数：同+2.5%)が下支えしたこと

により、景気が底堅く推移したことが確認できる。

7月以降についても、第3次産業活動指数、建設業活動指数が堅調に推移すると予想される。また、鉱工業生産指数も、IT部門の在庫調整終息により7-9月期は上昇する可能性がある。こうしたことから、全産業活動指数は引き続き緩やかな上昇を続け、今後も安定的に推移することが見込まれよう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。